

寄付

◆宮坂建設工業(帯広市、宮坂寿文社長)が帯広市に車いす寄贈

11日、宮坂社長(写真左)が市役所を訪れ、米沢則寿市長(同中央)に車椅子3台(計23万4000円相当)を届けた。

同社は福祉の充実に役立てるため、2008年から本社のある帯広と支店のある札幌、釧路の3市に毎年3台ずつ寄贈。帯広市に同社が贈った車椅子は計24台となった。

鉄くすなどの廃材を回収する業者のリサイクルポイントを活用し、車椅子と交換した。



宮坂社長は「今後も続けていきたい」と話し、米沢市長から感謝状を受け取った。  
市は帯広の森野球場で活用する予定。

各企業等の社会貢献

宮坂建設工業が寄贈

帯広市へ車いす3台を

札幌、釧路合わせ累計で72台に



米沢市長から感謝の言葉とともに、感謝状が贈呈された。

同社では事務所や各現場で発生した新聞紙や紙くすなどの廃棄物をリサイクルポイント化する制度を活用。

【帯広発】宮坂建設工業(株)(帯広、宮坂寿文社長)は11日、地域貢献の一環として、帯広市に車いす3台を寄贈した(写真)。宮坂社長が市役所を訪れ、米沢則寿市長に目録を贈呈。平成二十一年から毎年、ポイントで車いすを購入し、帯広市をはじめ、支店のある札幌市と釧路市に車いすを寄贈しており、ことしで八年目となる。札幌支店では四月二十二日に札幌北区の

社会福祉協議会に車いすを寄贈。釧路支店では、今月末に寄贈を予定している。

この日、市役所で行われた贈呈式には、宮坂社長、加藤兆基常務が出席し、市役所幹部らが見守る中、宮坂社長が米沢市長に目録を

贈呈した。宮坂社長は「リサイクルポイントを活用して毎年、車いすを寄贈しており、今後も継続していきたい」と力強く語っていた。

米沢市長は「車いすは消耗品で車いすの需要は確実に増えている。毎年、寄贈していただき、大変ありがたい」と感謝していた。

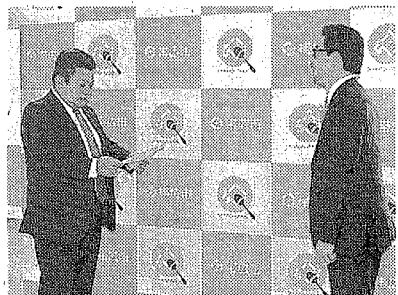
今回の三台を含めて、帯広市への寄贈は計二十四台となった。帯広市では、備品登録を行った上で、帯広の森野球場で活用している。

また、ことし本社・札幌・釧路支店寄贈の計九台を含めると、車いすの寄贈台数は計七十二台となった。

車いす3台 帯広市に寄贈

宮坂建設工業

【帯広】宮坂建設工業(本社・帯広)は11日、福祉の充実に役立てよう



同社は2008年から毎年、廃品回収業者のリサイクルポイントを活用して車いすと交換し、帯広市と札幌市、釧路市に3台ずつ寄贈。これまでに計72台を数えている。今回、帯広市に贈った車いすは帯広の森野球場で活用されるという。

米沢市長は「車いすは消耗品で需要も高い。毎年本当にありがたい」と感謝。宮坂社長は「現場から出た鉄くすなどをこつこつためて車いすに換え、地域の福祉に役立てる活動をこれからも進めたい」と話していた。